

大型宿泊施設建設(民設・民営)立地



↑調印後に握手を交わす、中島竜作三共建設社長、大楽浩トス株式会社社長、立会人の三反園訓知事、川添町長 (写真左から)



↑宿泊施設の建設予定地



↑建設予定の宿泊施設 (イメージ図)

新たな観光拠点として期待

大型宿泊施設建設(民設・民営)立地協定式

長島町とトス・三共JVホテル建設プロジェクト(大楽浩代表)による、大型宿泊施設建設(民設・民営)立地協定式が4月19日、三反園訓鹿児島県知事を立会人として、マリンプレスカゴシマ(鹿児島市)で行われました。

同プロジェクトは、老朽化の進んだ本町指江にある「ホテル

長島」(1972年開業・現サンセット長島)に代わる、新たな大型宿泊施設の建設・運営について町が公募していたところ、株式会社トス(鹿屋市、大楽浩会長)と株式会社三共建設(錦江町、中島竜作社長)の共同企業体(JV)が応募。選定委員会の審査を経て決定しました。

計画での新たな宿泊施設は、4階建てホテル棟(36室)と7棟の離れを建設。宿泊定員は約100人で、延床面積3950平方メートル、総事業費12億5千万円となっています。このほか、地元を含めた約20人の雇用を見込んでいます。

調印後に、川添町長は「本町はイベントにより交流人口は増えたが、肝心の宿泊施設が一番の課題であった。今回の締結で、本町の観光事業が一層発展することを期待している」とあいさつしました。大楽代表は「長島町の人たちと一体となって、地域活性化に取り組み、鹿児島を発信する場にしたい」と開業への抱負を述べました。立会人の三反園知事は「今回の協定式の締結に立ち会えることができうれしく思う。自然が豊かで素晴らしい食材が揃っている長島町に大型宿泊施設が建設されることに、県としても成功するよう協力していきたい」とあいさつしました。

この大型宿泊施設は、平成30年4月の開業を予定しています。